第１号様式④（第９条関係）

提 案 書 要 約

1　事業名称	食品包装プラスチックにおけるケミカルリサイクルの社会実装化に向けた消費者受容性の検証及び啓発活動
2　申請者名	PSジャパン株式会社

3　内容

（１）背景・目的

プラスチック資源循環の推進において、食品包装用途へのリサイクルプラスチックの活用は重要な課題である。食品包装は使用済みプラスチックの大きな割合を占めており、循環型社会の実現に向けては食品包装分野における資源循環の高度化が不可欠である。

ケミカルリサイクル（以下「CR」という。）は、使用済みプラスチックをモノマーやナフサ相当物質まで分解し、不純物を除去したうえで再度プラスチックを製造する技術である。そのため、得られるプラスチックは品質及び安全性の面でバージンプラスチックと同等で、食品包装用途への適用が可能である。

一方で、食品包装用途におけるCRプラスチックの使用に際して、技術的・品質的な課題よりも、バージンプラスチックに対するコストアップ、リサイクルプラスチックが食品包装に使用されることに対する消費者の心理的抵抗感等が懸念されている。今後、食品包装分野におけるCRプラスチックの利用拡大を進めるためには、消費者のCRプラスチック利用に対する生の声を調査、またCR技術・CRプラスチックの正しい理解を促進するとともに、実際にCRプラスチックを使用した包装に接する機会を提供し、その受容性を検証することが重要である。

以上の問題意識から本事業では、『CRプラスチックに関する消費者の心理的抵抗感』に着目し、以下を実施する。

①食品包装用途へのCRプラスチック使用に関する消費者の意識調査
②CR技術に関する情報・知識の消費者への提供
③CRプラスチック使用に対する心理的抵抗感の低減

これにより、将来的な食品包装分野へのCRプラスチックの社会実装に向けた基礎データを蓄積し、サーキュラーエコノミーの推進に貢献する。

（２）本事業の取組内容

① 食品包装へのCRプラスチック適用

包装メーカー及び食品メーカーと連携して、PSジャパンが供給するケミカルリサイクルPSを食品包装材に使用。当該包装材を使用した製品を生産する。

② CR技術に関する情報提供

都内でCRプラに関するイベントを開催し、消費者に対し、CR技術の仕組みや環境的意義、安全性等について分かりやすく説明する。パンフレットや動画等を活用し、食品包装用途におけるCR樹脂使用に関する理解促進を図る。

③ 消費者受容性評価の実施

アンケート等により、CR樹脂を使用した食品包装に対する認知度、安全性に関する認識、環境価値への評価及び利用受容性等を調査する。

④ 体験機会の創出

アンケート調査に応じくれた消費者に対して①の製品を提供する。これにより、消費者が実際にCR樹脂を用いた食品包装に接する機会を創出し、消費者の心理的抵抗感の低減を図る。

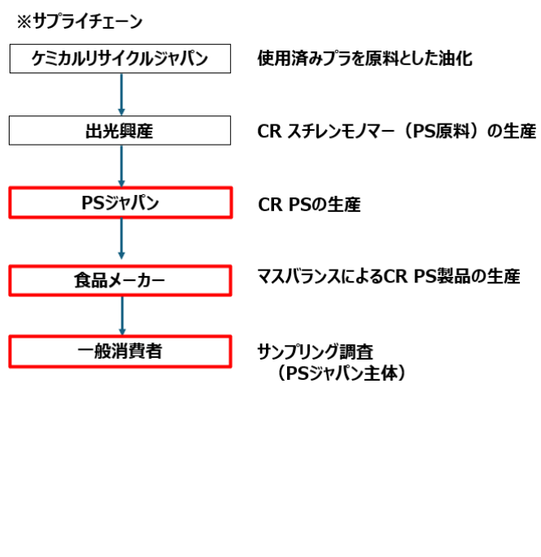
⑤ アンケート結果の整理・発信

事業を通じて得られた消費者評価結果を整理し、食品包装用途におけるCR樹脂の受容性向上に向けた知見として取りまとめ、普及に向けた課題を抽出する。また、その成果を広く発信することで、CRプラスチックの社会実装に貢献する。

（３）本事業の実施体制

① 実施スキーム

首都圏での実証事業としてケミカルリサイクルジャパン（千葉）、出光興産千葉事業所、PSJ千葉工場、東京本社の食品メーカーと連携。サンプリング調査は都内で実施。



（４）本事業のスケジュール

	8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
都への対応		☆申請										
実証事業					☆参画ブランドオーナーFIX					☆メディア・各社HP等での**対外発表**		

	12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
都への対応							☆事業成果物提出					
実証事業	☆**イベント実施**			☆調査結果集約				☆メディア・各社HP等での**対外発表**				

以上